

1 助成枠

〔審議事項〕

- ①平成24年度の助成対象分野と助成金額をどうするか。
 ②分野指定助成とスタートアップ助成の割合をどうするか。

(案)

		平成24年度	平成25年度以降	検討事項等（第3回以降で）
分野指定助成	助成枠	80万円とする	分野を指定しての寄附想定額 200万円	分野指定の寄附額からも10%をスタートアップへの助成とするのか
	助成方法他	分野の指定はしない	前年度の寄附額により運営委員会にて決定する	
団体応援助成	助成枠	なし	団体を指定しての寄附想定額 100万円	団体応援の寄附額からも10%をスタートアップへの助成とするのか
	助成方法他	今年度の助成はなし	応援寄附のあった団体	
スタートアップ助成	助成枠	20万円とする	上記の寄附額から10%を財源に 30万円+α	分野指定と団体応援の、それぞれの寄附額から10%をスタートアップへの助成とするのか
	助成方法他	20万円の場合 2団体へ助成		
備 考		市の出資金からの取り崩しによる 100万円拠出	寄附想定額 合計300万円	

2 助成の審査

(1)分野指定助成

A案 * 一次審査も点数で審査する場合

審査の流れ→

審査の流れ				
	1.受付	2.第一次審査 (書類審査)	3.第1次審査の整理	4.第2次審査 (公開プレゼンテーション)
	事務局	運営委員	事務局	運営委員及び事務局
手順 ↓	①助成申請書類受付	①送付された申請書類にて、各委員は審査をする	①審査表の点数集計	①運営委員 1人につき1項目 10点満点×5項目＝50点満点にて採点
	②受付後、一式を運営委員へ送付	②運営委員 1人につき1項目 10点満点×5項目＝50点満点にて採点	②点数の合計の高いものから上位とした一覧表作成	②一次（50点満点）と二次（50点満点）の合計点で順位を決定する。
		③採点表を事務局へ返送 →期日を設ける	選考基準（案） 一次、二次共通 選考の5項目 ①市民ニーズ適合性 ②効果性 ③全体の整合性 ④発展性 ⑤地域の課題・特性（熊本らしさ）	
確認事項	① 一次審査の合計点で、自動的に一次審査通過団体を決めることとする。 ② 一次審査通過団体の数は、一次審査の集計を基に、上位より助成枠相当の団体数を出し、その2倍にあたる数の団体とする。 ③ 一次審査の点数と二次審査の点数の合計点により順位を決定する。 ④ 審査の結果、順位に従い助成内容及び助成金額を決定する。			
	【平成25年度以降】＊平成25年度以降は、分野を指定した助成方法を開始するため、審査の方法を若干見直す必要がある。 ① 分野の区分ごとに順位をつけるのか、全体を通して順位をつけるかどうか。 ② 一次審査の結果、二次審査に進出する団体数を事前に調整する場合(委員会)を設ける必要があるのでは。			
				 3回目以降での検討事項

B案＊8団体が一次審査通過団体の場合

審査の流れ→

	1.受付	2.第一次審査 (書類審査)	3.第1次審査の整理	4.第2次審査 (公開プレゼンテーション)
	事務局	運営委員	事務局	運営委員及び事務局
手 順 ↓	①助成申請 書類受付	①送付された申請書 類にて、各委員は審 査をする	①審査表の点数 集計	①運営委員 1人につき1項目 20点満点×5項目＝100点満点 にて採点
	②受付後、 一式を運営 委員へ送付	②運営委員が一次通 過団体数の8つの団 体に丸を付ける。	②丸の付いた数の 多い団体から8団 体を一次通過団体 とする。	②各委員の二次の審査点数の合計の 高いものから、助成をする。
		③採点表を事務局へ 返送 →期日を設ける		選考基準 二次審査（プレゼンテー ション）選考の5項目 ①市民ニーズ適合性 ②効果性 ③全体の整合性 ④発展性 ⑤地域の課題・特性（熊本らしさ）
確 認 事 項	① 1団体15分のプレゼンテーションと仮定し、一次審査通過団体を8団体とする。それぞれの運営委員が良いと思う8団体に丸を付ける。 ② 一次審査通過団体の数は、一次審査の丸の付いた数を集計して、その数の多い団体の上位より8団体とする。 ③ 一次審査の点数加点はせず、二次審査（申請書類及び公開プレゼンテーション）の点数の合計により順位を決定する。 ④ 順位に従い助成内容及び助成金額を決定する。			
	【平成25年度以降】 A案と同じ			

(2)スタートアップ助成

審査の流れ→

	1.受付	2.第一次審査	3.第1次審査の整理	
	事務局	運営委員	事務局	
手順 ↓	①助成申請書類受付 (事務局)	①送付された申請書類にて、各委員は審査をする	①運営委員からの点数集計	
	②受付後、一式を運営委員へ送付	②運営委員1人につき1項目 20点満点×5項目＝100点満点にて採点	②点数の合計の高いものから上位とした一覧表作成	
		③採点表を事務局へ返送→期日を設ける	③運営委員会にて、一覧表にて検討し決定する。	
確認事項	①点数の合計の高いものから上位とした一覧表を作成する。 ②書類審査のみで助成を決定する。			

(3)団体応援助成(今年度は実施せず)

審査の流れ→

	1.受付	2.第一次審査 (書類審査)	3.第1次審査の整理	
	事務局	運営委員	事務局	
手順 ↓	①助成申請書類受付	①送付された申請書類にて、各委員は審査をする	①運営委員からの点数集計	
	②受付後、一式を運営委員へ送付	②運営委員1人につき1項目 20点満点×5項目＝100点満点にて採点	②点数の合計の高いものから上位とした一覧表作成	
		③採点表を事務局へ返送→期日を設ける	③運営委員会にて、一覧表にて検討し決定する。	
確認事項	①点数の合計の高いものから上位とした一覧表を作成する。 ②書類審査のみで助成を決定する。 ③団体応援寄附であっても、その申請内容に大きな格差があることも想定されるため審査をして、加算額をどのように割り振るかを判断するために順位をつける。			

3 審査の際の判断基準

(1) 事業費の調整について

- ① 原則は、資料2の4ページ「3助成の種類」の表に記載しているとおり、それぞれの助成区分ごとの上限額を限度とし助成を行う。
- ② 助成額を減額することが想定されるもの。
 - ・ 予算の都合により減額する場合
 - ・ 全体的に一定率を減額してでも助成すべき公益的な事業がある場合

(2) 分野の縦割りルール

- ・ 原則的には、分野指定助成(6種類)のそれぞれの分野に寄附があった場合、寄附があった分野について助成事業の募集を行う。
- ・ ただし、分野の種類により、寄附額に著しく差がある場合については、運営委員会において協議し弾力的に運用できるものとする。

(3) 審査における助成残額の調整について

- ・ 運営委員会の審査の結果、それぞれの分野やスタートアップ助成に残額がある場合は、市民公益活動の支援の視点から総合的に判断し、助成を行うことが妥当な場合において、それぞれの残額を合算し助成をできるものとする。

※ 助成審査後、次点の事業を採択するには助成額が不足する場合について

- ① 残額は、他の区分と合算し、全体で考えた次点の事業を助成する。
- ② 残額は、助成額を減額して助成する。
- ③ 残額は、次年度に繰り越す。

第3回 運営委員会での審議事項

〔寄附金の取り扱い方について〕(事務局案)

- 1 平成25年度以降について、6分野とも助成対象となった場合、分野ごとどれだけの団体の事業をプレゼンテーション進出団体と想定するのか。
- 2 分野指定寄附のうち、10%をスタートアップ助成の財源としてはどうか。
- 3 団体指定助成への寄附があった場合、必ずしも全額が助成されるわけではないとしているため、新たな考え方として、スタートアップ助成にその一部を当てるというのはどうか。
 - ① 10%はスタートアップ助成に回すこととし、新規活動団体の支援として活用する。
 - ② 新たな考え方なので、周知が必要。
 - *「はじめの一步」という捉え方で、すでに基盤がしっかりして団体への応援助成が得られるような団体が、まだ基盤も脆弱な立ち上げたばかりの団体をも支援するという考え方



- ・熊本らしさの特徴とできる部分。
- ・寄附集めの際の、アピールポイントとなるのではと考える。

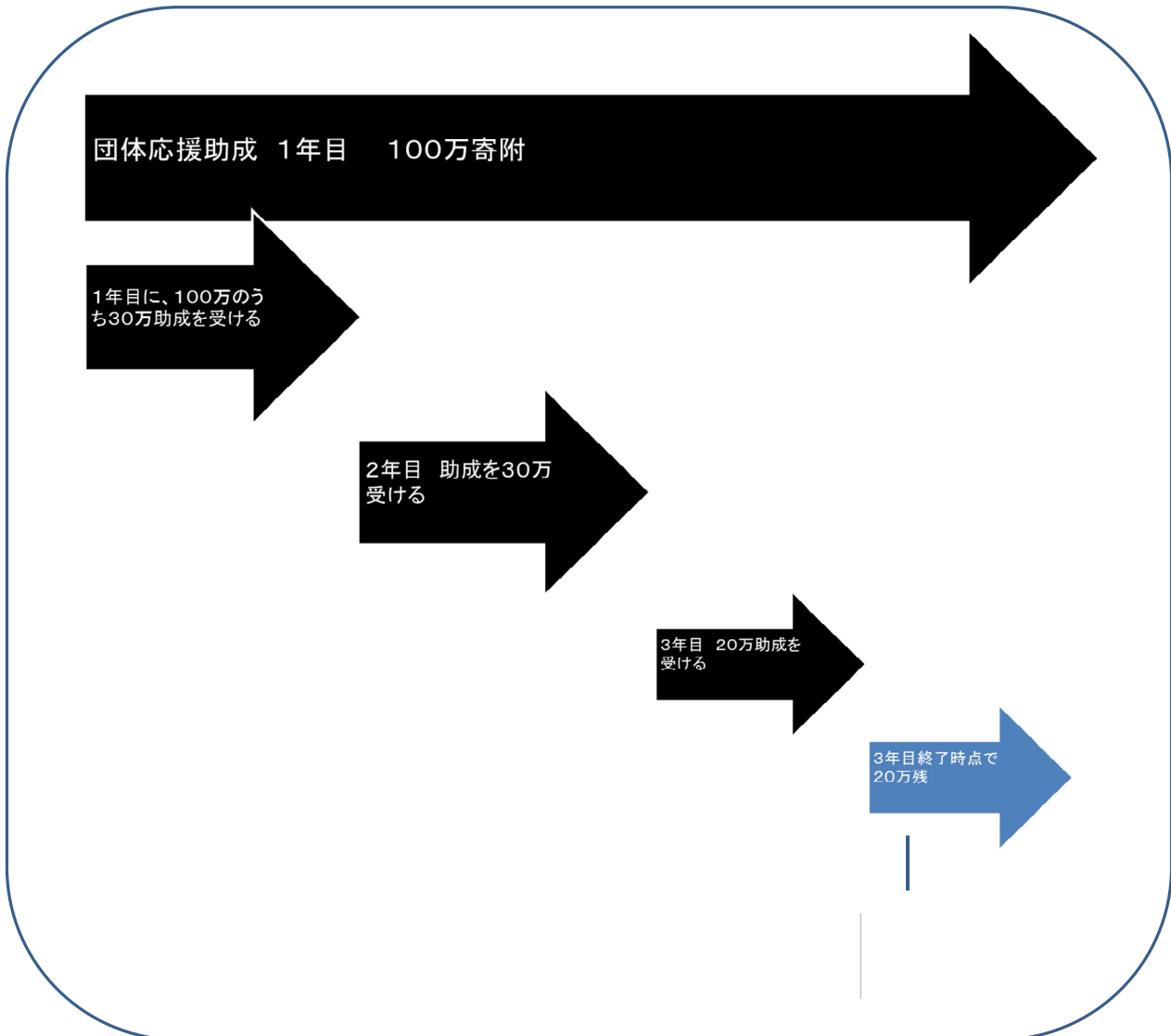
4 団体応援寄附の持越しルール

10%を、スタートアップ助成に廻すかどうか検討する。

- ① 10%をスタートアップ助成に回す場合であれば、ずっと持越し可とするのか
- ② 10%をスタートアップ助成に回さない場合、3年事業申請年度までにするのか

[団体応援寄附持越しのイメージ]

持越しを、3年事業年度までとする場合



5 一般寄附の充当ルール

- ① 年度ごとに助成要領を委員会で決定する。

6 検討会議での意見「助成する団体によっては、寄付をした事業にとってマイナスイメージを与える場合もある。冠寄付の助成審査においては、寄付者も審査の過程に入る、若しくは発言の機会を設けるなどが必要ではないか。

- ① 事業申請の際に団体名のみお知らせする。
- ② 分野、スタートアップの第2次審査にて意見を述べることができる。
- ③ 第2次審査の前に書類を閲覧し、意見を聞き取り、委員会に提供する。